白石地区の未来を見据えた地域づくりの取り組みを発信する広報紙

瓦版しろいし（かわらばん）

vol.7

令和7年10月1日発行

発　　行：（仮称）白石地区まちづくり協議会設立準備委員会
編集協力：白石市市民経済部まちづくり推進課
　　特定非営利活動法人 都岐沙羅（つきさら）パートナーズセンター

まちづくり協議会の骨子が固まってきました

みらいづくり座談会の意見を踏まえ、協議会の設立に向けて検討を進めています

令和6年4月に（仮称）白石地区まちづくり協議会設立準備委員会（以下「準備委員会」という。）が発足し、これまでに「みらいづくり座談会（若者会議、次世代会議、熟練会議等）」を通じて、幅広い方々から貴重なご意見やアイディアを頂戴しました。準備委員会ではこれらを受けて、「白石地区に足りていないこと」を少しでも解消するため、自治会や各種団体と連携しどのような支援ができるのか、また、設立する協議会の理念づくりや組織体制、事業の柱をどうするか等について協議を重ね、ようやく骨子が固まってきました。

瓦版しろいし7号では、準備委員会で検討してきた、設立するまちづくり協議会の骨子についてご紹介します。

なお、本紙でお示ししている内容は、あくまでも素案段階のものです。

この素案の内容を直接説明するため、準備委員会では、10月29日（水）に白石地区住民の皆様を対象とした「（仮称）白石地区まちづくり協議会設立に向けた説明会」を開催します。ぜひ多くの方々にご参加いただき、幅広いご意見を賜りながら、さらに検討を進めていきたいと思っています。

地区住民の方々にご理解をいただけるような組織づくりに努めて参りますので、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

設立準備委員会での検討風景

座談会での対話を踏まえた論点整理

座談会では、たくさんの具体的なアイディア・意見が出されました。しかし、これら1つ1つを設立するまちづくり協議会ですべて実施していくのは困難です。アイディアの実現にあたっては、多様な地区住民の方々の協力・参加が不可欠！まずは多くの人が関われる環境を整えることが、まちづくり協議会の最初の役割ではないかと準備委員会では考えました。

こうした環境を整えていく上で、白石地区では「何が足りていないのか」を議論した結果、以下の4つが浮かびあがり、ここを起点にして協議会で行う事業内容・体制を検討していきました。

～白石地区で足りていないこと～

- **若者の地域づくり活動を応援する仕組み**
- **中堅世代・女性の参画機会**
- **既存組織の連携協働を促す対話の場**
- **特定課題に対する取り組み・対話の場**

準備委員会メンバーの想いを綴ったコラム

動き始めて5年

「白石地区まちづくり協議会」設立に向けて今までの、一連の経緯を振り返ると、一番最初と思われる集まりが、令和3年12月に開催された白石地区の自治会長を対象にした「地域づくり研修会」でした。多くの自治会長が参加していたと記憶しており、講師はＮＰＯ法人都岐沙羅パートナーズセンターの斎藤主税（さいとうちから）先生でした。5年も前になりますが「白石地区まちづくり協議会」設立に向けての、始めの一歩にあたります。

この研修会では主に①人口データをもとに今後の時代を見据えた住民自治の必要性の講義②地区の現状を実感するワークショップ等が実施されました。大勢が参加された中、当時のワークショップ形式の研修会はどういうものになるのか心配されましたが、始まるとほとんどの方々が活発に意見を述べ合っているのが印象に残っています。確実に少子高齢化で人口が激減している白石市は衰退してきており、このままで良いのか、何とかしなければ、と言う声が多く出ておりました。

その後も現在まで、「白石地区まちづくり協議会」設立に向けた数々の会議・研修会・ワークショップ・先進地視察・幅広い住民の声を拾い上げるための若者会議・次世代会議・熟練世代会議・自治会長や各種団体との情報交換会・座談会等たくさんの事を行ってきました。

今、様々な年代層と繋がり、令和8年1月に「白石地区まちづくり協議会」設立のスタートラインに立とうとしております。

【編集後記】

昨年から白石地区まちづくり協議会設立準備委員として活動する中で、多くの住民の方々とお会いして、座談会で意見をいただきました。それをもとに私達の地区の「まち協」を作っています。

この夏『舞台に立って』という曲を耳にし、アスリートが理想の「みらい」に近づくという内容が今のまち協設立準備の状況に重なって聞こえました。「どんな活動をするのか？」、「組織体制は？」議論をして案を作り、一緒に活動する仲間への声掛けも始まりました。

不安はありますがチームでアイディアを出し合えば思いもつかない発想で地域の問題解決ができるかもと、「みらい」に胸躍る今日この頃です。

※前号でお知らせした設立までのスケジュールから若干、変更になりました。

R7 10月～

（仮称）白石地区まちづくり協議会設立に向けた説明会を開催します！

日時：10月29日（水）19時～
場所：白石市役所 4F大会議室
内容：組織立ち上げに関する経緯説明と今後の体制について

【申込み方法】
説明会への出席を希望される方は、10月15日（水）までに以下のQRコードを読み取って申込みフォームにアクセスいただき、必要事項をご入力の上、お申し込みください。

R8 1月～

まちづくり協議会の設立

※協議会設立総会を開催します。

4月～

各種事業を本格的に開始

（仮称）白石地区まちづくり協議会の理念（案）

将来への希望と安心感を高める
自治型コミュニティをつくる

私たちは、地域の困りごとや人・団体の情報を日常的に整理・共有し、自治会や各種団体の協働と新しい発想の活動を生み出します。

<この取り組みへの問い合わせ先>
（仮称）白石地区まちづくり協議会
設立準備委員会 事務局（担当：大橋）
【TEL】080-5732-6529（月曜10:00～12:00）
【メールアドレス】shiroishimachikyo@gmail.com

協議会設立当初は3つの柱を掲げて事業を推進します

世代別会議・みらいづくり座談会を通じてわかったのは、「単独自治会で活動を維持することの困難さや運営者の悩みがあること」「若者・中堅世代や女性でも地域活動への関心は高く、地区住民の熱量を感じられたこと」の2つです。これを踏まえ、「これからの白石地区に必要となるつながりは何か」「今の白石地区に足りていないことは何か」を話しあった結果、設立当初は次の3つを協議会で実施する事業の柱に掲げていくべきだと考えました。

①(仮称)あなたの企画を応援しますプロジェクト

若者・中堅世代・女性がもつ地域活動への関心や多彩なアイディアは地区の宝です。その実現を後押しする仕組みを整え、活動の実践を通じて次の地域の担い手となる人材を育成していきます。

②(仮称)白石ネットワーク会議の開催

自治会をはじめとした地区を支える組織・団体同士のつながりを生み出し、連携・協働を促すためには、まずは情報交流・対話の場が必要です。こうした場をまちづくり協議会が核となって設けていきます。

③地域課題に挑む対話・取り組みの実施

防災・安全などの地域課題に対しては、多様な世代から出されるアイディアと既存の組織・団体の経験を掛け合わせながら、解決に向けた取り組みを進めていくことが大切です。まちづくり協議会は、この推進役となる取り組みを行います。

まちづくり協議会が取り組む3つの事業

①(仮称)あなたの企画を応援しますプロジェクト

白石地区における「人と地域が輝く未来共創交付金」の事務局として住民主体の活動を支援します。

【支援対象】

A **自治会・住民団体**が主体となって実施する地域づくり活動

B **若者・中堅世代**が中心となって実施する地域づくり活動

※これまでの支援対象だったAの他に、白石地区を担う人材育成を目的としたBを新たに設けます。この部門はまちづくり協議会の直営事業とし、幅広い若者・中堅世代の参画を得ながら企画・実施していきます。

②(仮称)白石ネットワーク会議の開催

白石地区内の既存組織・団体同士のつながりを生み出し、連携・協働を促すための情報交換・対話の場を定期的に設けていきます。

③地域課題に挑む対話・取り組みの実施

白石地区の具体的な地域課題を取り上げ、その解決に向けた対話の場や取り組みをまちづくり協議会の事業として実施します。

（例えば…）

○自治会単独で実施してきた活動・行事等を合同開催することで負担を軽減を図る。

○防災や防犯など安全・安心に関する取り組みを、多様な団体が連携して実施する。　等

3つのチームを編成して事業を推進していきます

3つの事業を推進するための組織体制として、まちづくり協議会は左図のような組織体制でスタートしていきたいと考えています。

●実行機関として3つのチームを編成

「人材育成」「連携協働」「広報・総務」の3つのチームを編成し、それぞれで担当する事業を決めて活動していきます。

なお、初動のメンバーは、「地域づくりフォーラム」「世代別会議」「みらいづくり座談会」の参加者で、協議会の活動に継続的な協力や参画を申し出てくださった方を中心に構成する予定です。

●総会は各自治会から選出された代議員で構成

各チームで実行する事業の内容は、協議会の会長・副会長やチーム代表・事務局からなる役員会で原案を作成し、地区住民の代表として各自治会から選出された代議員で構成された「総会」で決定していきます。

●必要に応じて特別委員会・プロジェクトチームを設置

各自治会共通の地域課題や緊急性の高い問題がある場合は、それを協議するための「特別委員会」を設置します。そして、課題解決に向けた取り組みの実践は、新たに「プロジェクトチーム」を立ち上げて推進していきます。

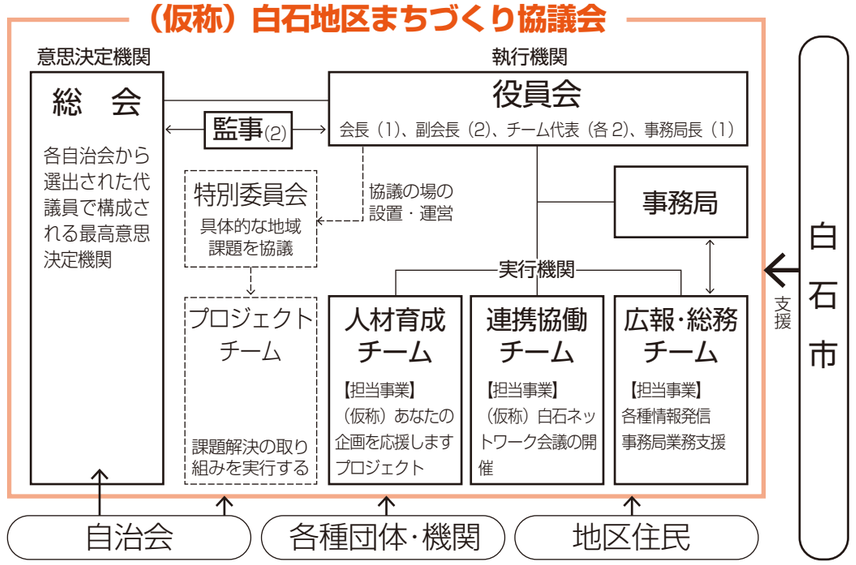

図　設立時の組織体制（素案）

まち協設立にあたっての疑問にお答えします

Q　設立するまちづくり協議会は、市内他地区のまちづくり協議会と同じ組織ですか?

A　基本的には同じような組織です。ただ白石地区では、「地区住民主体の活動支援」「自治会や各種団体同士のネットワーク・横の連携の促進」という2つを重視した事業を展開したいと考えています。特に後者については、地区内の学校との連携を積極的に進めることで、若い世代の地域づくり活動への参加を加速させていきたいと思っています。

Q　どんな人たちで運営するのですか?

A　設立時は、設立準備委員会のメンバー（自治会連合会白石支部・役員＋これまでに開催されたフォーラムや座談会の参加者）に加え、みらいづくり座談会等に積極的に参加し、継続的に参画する意思のある方々でスタートしたいと考えています。ただし、設立後は、新たな地区住民の参画・協力を得て、体制を拡充していきます。

Q　白石地区には自治会長で構成している自治会連合会白石支部があり、自治会長間の相互連携と連絡調整、市との連絡調整等の事業を実施していますが、これらの活動と重複しませんか?

A　まちづくり協議会は、自治会だけでなく、各種団体・地区内の学校等も含めたさまざまな団体・機関との連携・協働を促していきますので、活動が重複することはありません。

Q　各自治会との関係性はどうなるのですか?

A　各自治会の独立性は現状のままです。ただし、自治会単独での実施が困難な案件については、積極的に関与・支援をしていきたいと考えています。

Q　これまでのまちづくり交付金が、人と地域が輝く未来共創交付金に替わり、この事務局を（仮称）白石地区まちづくり協議会が担いますが、交付金の申請手続き等はどうなるのですか?

A　各団体は、（仮称）白石地区まちづくり協議会事務局とやり取りすることになります。

Q　総会の代議員を各自治会からの選出するとありますが、自治会の負担増になりませんか?

A　開催方法等を工夫することで、負担が軽減できるように配慮していきます。